

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3601720号
(P3601720)

(45) 発行日 平成16年12月15日(2004.12.15)

(24) 登録日 平成16年10月1日(2004.10.1)

(51) Int.Cl.⁷

F I

B 6 5 D 85/57

B 6 5 D 85/57

C

G 1 1 B 23/03

G 1 1 B 23/03

G O 1 A

請求項の数 4 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-530581
 (86) (22) 出願日 平成8年4月12日(1996.4.12)
 (65) 公表番号 特表平11-503691
 (43) 公表日 平成11年3月30日(1999.3.30)
 (86) 国際出願番号 PCT/AU1996/000221
 (87) 国際公開番号 WO1996/032719
 (87) 国際公開日 平成8年10月17日(1996.10.17)
 審査請求日 平成14年11月15日(2002.11.15)
 (31) 優先権主張番号 PN2396
 (32) 優先日 平成7年4月13日(1995.4.13)
 (33) 優先権主張国 オーストラリア(AU)

(73) 特許権者
 デュラディスク ピーティワイ リミテッ
 ド
 オーストラリア ニューサウスウェールズ
 州 2000 シドニー ジョージ スト
 リート 190 レベル 3
 (74) 代理人
 弁理士 吉田 研二
 (74) 代理人
 弁理士 石田 純
 (72) 発明者
 マッコワソン スタート
 オーストラリア ニューサウスウェールズ
 州 2090 クレモーン エラロング
 ロード 39

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンパクトディスク・ケース

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

コンパクトディスクなどのディスク型情報媒体の保存ケースであって、前記ディスク型情報媒体を収容するようになされた、一方が前記ディスク型情報媒体を収容するためのベースを規定し、他方が保存ケースの上面となる蓋を規定する、ヒンジ結合された2つの部品と、

前記ベースに設けられ前記ヒンジ結合された部品を閉じた位置に保持することで前記蓋を前記ベースにラッチするためのキャッチ機構と、

前記蓋に設けられた維持部材と、

を含む保存ケースにおいて、

当該キャッチ機構と一体に形成され、前記維持部材と係合することでスナップ係合動作によって前記蓋を前記ベースにラッチする突出部を規定し、押圧されることに応じて前記維持部材とのラッチを外すボタンであって、ベースからほぼ垂直方向に伸びるステム上にカンチレバー式に設けられたボタンと、

前記蓋と前記ベースの間に配設され、前記ケースが閉じた状態で前記蓋及び前記ベースのそれぞれに抗する力が付与され、ユーザの指で前記ボタンを押圧することによりステムを変形させるとともに前記蓋の維持部材から離してラッチを外した時に、前記ケースを開けるバイアス手段と、

を有する保存ケース。

【請求項2】

10

20

前記ボタンが使用者の指によって押すようになっている請求項 1 記載のケース。

【請求項 3】

バイアス要素が前記ヒンジ結合された部品的一方に一体的に形成されている請求項 1 または 2 に記載のケース。

【請求項 4】

バイアス要素がボタンと同じヒンジ結合された部品側に一体的に形成されている請求項 3 記載のケース。

【発明の詳細な説明】

技術分野

本発明は一般的にヒンジ結合された 2 つの半体で構成されかつ簡単なラッチング（掛けどめ）機構により閉じることができる一般的な透明プラスチックケース（ポリカーボネートプラスチックなど）を含むコンパクトディスク・ケースに関する。

背景技術

従来のコンパクトディスク・ケースでは様々な問題が起きうることが知られている。よく経験される問題の 1 つは、ヒンジ結合された 2 つのケース半体を閉じた位置に保持するためのラッチ（掛けどめ）が時間の経過とともに操作不能になることである。一定期間使用するとラッチが摩耗または破損し、その結果ケースが偶然、不本意に開く場合がある。

従来のコンパクトディスク・ケースでさらに経験される問題点は、ケースの梁（spine）を形成している端面に位置する情報が、ある照明条件下では時として読みづらくなることである。通常、ケースの梁にはその中に収められているコンパクトディスクの内容に関する情報が表示されているが、ある特定の照明条件下ではこの情報が読み取り難いものとなる。

したがって本発明の目的は、従来技術の問題点のいくつかを解消する改善された新規なコンパクトディスク・ケースを提供することにある。

発明の要旨

本発明の 1 つの特徴は、コンパクトディスク又はその類似物品を収容するようになされたヒンジ結合された 2 つの部品を含むコンパクトディスク・ケースなどのキャッチ（止めがね）機構を提供するものであり、

当該キャッチ機構は前記ヒンジ結合された部品を閉じた位置に保持するようになされているとともに、前記ヒンジ結合された部品的一方の上にボタンを備え、他方のヒンジ結合された部品との相互作用によりラッチを形成するようにされており、当該ボタンは前記ヒンジ結合された部品的一方と一体に形成されて、他方のヒンジ結合された部品とスナップ係合動作によって止められるように弾性的に取り付けられており、当該ボタンは使用者が押すことによって 2 つのヒンジ結合された部品のラッチを解除してケースを開くようにされている。

本発明はまた、コンパクトディスクなどを収容するようになされたヒンジ結合された 2 つの部品と当該ヒンジ結合された部品を閉じた位置に保持できるようになされたキャッチ機構を含むコンパクトディスク・ケースまたはその類似品を提供するものであって、

当該キャッチ機構は前記ヒンジ結合された部品を閉じた位置に保持するようになされているとともに、前記ヒンジ結合された部品的一方の上にボタンを備え、他方のヒンジ結合された部品との相互作用によりラッチを形成するようにされており、当該ボタンは前記ヒンジ結合された部品的一方と一体に形成されて、他方のヒンジ結合された部品とスナップ係合動作によって止められるように弾性的に取り付けられており、当該ボタンは使用者が押すことによって 2 つのヒンジ結合された部品のラッチを解除してケースを開くようにされている。

好ましくはこのボタン部は、ケースを開けるために使用者が指で押してヒンジ結合された 2 つの半体のラッチをはずすことができるようにされている。

好ましくはこのボタン部は、第 2 のヒンジ結合された半体の表面に作用してラッチをかけるようにする突出部を含む。

10

20

30

40

50

好ましくは本発明は、ヒンジ結合された２つの半体間に作用して、ヒンジ結合された２つの半体を離間させるようにバイアスを加えるバイアス要素を含む。さらにこのバイアス要素は前記ヒンジ結合された半体の一方と一体的に形成されているのが望ましい。好ましくはこのバイアス要素はボタン部と同じヒンジ結合された半体側に一体的に形成される。本発明はさらに以下の特徴を備える。すなわち、ケースの少なくとも１つの端面が比較的大きな曲率半径で湾曲したものであって、光の反射を防止すると共に前記湾曲した端面に沿ってまたは隣接して位置する情報を読みやすくなる。

【図面の簡単な説明】

本発明の好ましい特徴を添付図面を参照してさらに詳しく説明するが、

図１は本発明によるコンパクトディスク・ケースの平面図で、ケースのヒンジ結合された半体が開いている状態を示す。 10

図２はこのコンパクトディスク・ケースのヒンジ結合された半体を閉じた状態の断面図であり；

図３はこのコンパクトディスク・ケースの１コーナー部分の平面図で、キャッチ機構とコンパクトディスク支持部分の特徴を示したものであり；そして

図４は閉じたケースを上から見た斜視図である。

好ましい実施態様の詳細な説明

添付図面の図１を参照すると、本コンパクトディスク・ケースの好ましい実施態様が開いた状態で示されている。このケースはヒンジ結合された半体１０および１１を包含し、好ましくはこれらの半体はプラスチック・ヒンジ（蝶番）１１ａでヒンジ結合されている。ヒンジ１１ 20
１１ａは各ヒンジ結合された半体１０、１１のそれぞれと一体的に形成するか、もしくはヒンジ１１
１１ａをヒンジ結合された半体１０、１１と別に形成してもよい。

図１および３を参照すると、ケースには中央に軸（スピンドル）１５が、コンパクトディスクまたは類似物品を公知の方法により収容させるために設けられている。さらにヒンジ結合された半体１０の表面には窪み１６が設けられ、これによりコンパクトディスクの端をつまみ上げるために指を入れ易くして、ケースからのコンパクトディスクの取り出しを容易にしている。

図２を参照すると、ヒンジ結合された半体１０にはステム２０に取り付けられたボタン部分１２が含まれている。ボタン部分１２は使用者が指で押すことができるようなサイズと形にされる。このボタン部分１２はステム２０の上に片持ち（カンチレバー）式に取り付けられており、ボタン１２の表面に使用者の指の力を加えるとステム２０が僅かに変形し、ボタンがヒンジ結合された半体１１の対応するキャッチ部分１３から外れるようにされている。ステム２０の変形により引き起こされるボタン１２の動きの範囲を点線で示す。 30

ボタン１２は突出部１２ａを含み、これがヒンジ結合された半体１１の上のキャッチ部分１３の表面と相互に作用し合う。図示の閉じた状態では、ボタンの突出部１２ａはケースを閉じた状態に保持するためにキャッチ部分１３の表面と相互作用する。

キャッチを外すためにボタン１２が押された時に２つの半体１０と１１をより大きく開かせるために、弾性バイアス要素１４がヒンジ結合された半体１１を掛止位置から上向きに動かすように働く。このバイアス要素１４は好ましくはボタン部材１２と一体に形成される。

したがってボタン１２を押すとキャッチが外れ、ヒンジ結合された半体１１がバイアス要素１４ 40
の作用で弾かれて開く。

図２を参照するとヒンジ結合された半体１１のラッチが外れた状態が破線で示されている。

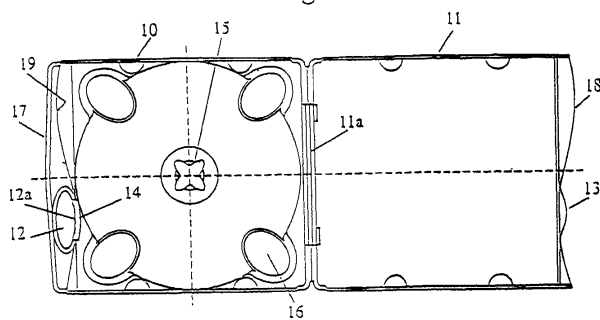
図４を参照するとケースの端面１７が比較的大きな曲率半径を有する曲面で形成されており、望ましくない光の反射を防止し、それによってケースがライブラリーまたは保管場所に収納されている時にコンパクトディスクなどの内容に関する情報を読みやすくするようにしている。図示の実施態様においては、この表面１７はケース半体１０のヒンジの付いていない自由終端面となっている。しかしながらこの表面１７は、ケースのいずれかの半体１０又は１１のヒンジの付いていない終端面あるいはヒンジ付きの終端面のいずれにも取り付けることができるのは当然のことである。

係合端面１８と１９は図３に示すようにケースの美的外観をよくするためにシンプルな曲線形 50

状に作られる。閉じられた時この端面18は端面19と隣り合って、外表面を滑らかにする。

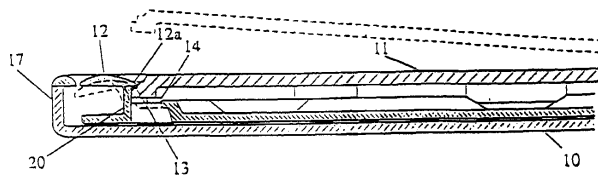
【図1】

Fig 1.



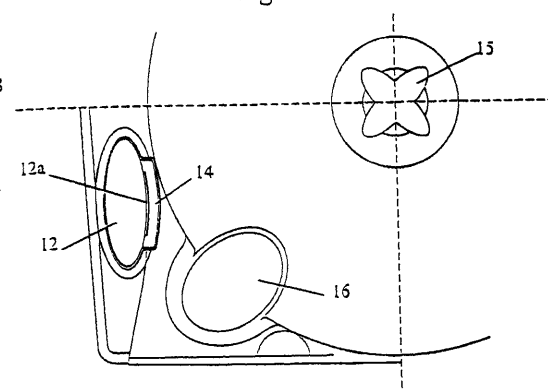
【図2】

Fig 2.



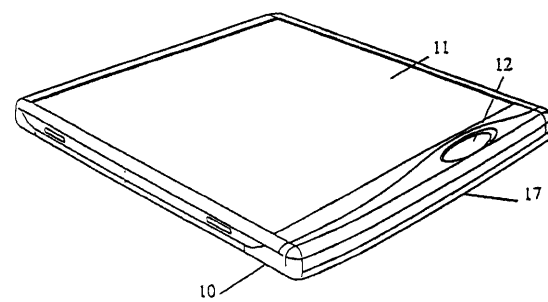
【図3】

Fig 3.



【図4】

Fig 4.



フロントページの続き

審査官 阿部 利英

(56)参考文献 実開平07-009788(JP,U)
実開平05-054297(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)
B65D 85/57
G11B 23/03